



鶏 けいめい 鳴

2008年1月13日(第9号)

イエスの言葉

「この息子は死んでいたのに生き返り、
いなくなっていたのに見つかった」
聖書(ルカ福音書 15章 24節)

牧師 河合裕志

ある時イエスは放蕩息子のたとえ話を語った。これはイエスの数あるたとえ話の中で一番有名なもの。こんな話。二人の息子を持った父親がいた。ある日のこと弟息子が父親に「私が頂くことになっている財産の分け前を下さい」と要求した。父はこれを許し二人に財産を分けた。

すると弟は全部を金に換えて遠い国に旅立ち娼婦などと遊びたわむれ放蕩の限りを尽くしてすっからかんになった。

そしてひどい飢饉が起り彼は食物に窮した。豚のエサである、いなご豆で腹を満たそうと豚飼いとなる。

ここに至って彼は我に立返った。「父の所では大勢の雇い人がたらふくパンを食べているのに私は飢え死に寸前だ。

ここを発ち父の所に帰って言おう。『私は天に対してもお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にして下さい』と」。こう決心して彼はよろけながら必死の思いで父の家を目指した。

ようやく家に近付いた時、「まだ遠く離れていたのに父親は息子を見つけて憐れに思い走り寄って首を抱き接吻した」。息子は父に言おうと決めていた言葉を口にする。父は下僕達に命じる。「一番良い服を持って来てこの子に着せ、手

に指輪をはめ、足に履物をはかせ、肥えた子牛を料理して食べて祝おう。この息子は死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ」。

これを知った兄息子は激怒する。今さらおめおめと帰って来た弟と、あまりに寛大なオヤジに対して。この兄息子に父親は言って聞かせる。「お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか」。

以上が話のあらまし。ここでイエスが何を訴えようとしたのか、それはきわめて明瞭だろう。「あなた方の天の父・神は心広く赦しに富む方。あなたが罪を悔い改め天の父のもとに帰ってくることを父は一日千秋の思いで待っている。赦しを与え父の子として迎えたいと欲している。人よ、いつまでも天の父より遠く離れ欲望のままに生き、孤独と絶望の滅びの内にあるな」。

天の父・神と私は「関係ねえ」と言わないようにしよう。この父は御子イエスをこの世につかわしイエスを十字架につけることにより私たちの罪をすっかり赦してくれたのだから。

この慈愛に富む父のもとに急ぎ帰ろう。

集会案内

主日礼拝	：毎日曜日	午前10時15分
こどもの教会	：毎日曜日	午前9時
祈祷会	：第4日曜日	礼拝後
婦人会・壮年会	：第2日曜日	礼拝後
聖書を学ぶ集い	：第4水曜日	午前10時
オーリーブの会	：第3水曜日	午前10時